

No. 1229

魅力の大自然

— 東 北 海 道 —

どこまでも遠く、どこまでも広い、東北海道、トドマツの林がオホーックの海水に侵されて立ち枯れ、木々の墓場を思わせるトドワラ。荒涼とした風景が大自然の計りしれない営みを教える。野付崎に抱かれた内海、尾岱沼。6月から10月まで、白い三角帆をかけた小舟がゆったりと網を引きながらエビをる。尾岱沼特有の風物詩である。深さ208メートル、急峻なカルデラ壁に囲まれた神秘の湖、摩周湖。霧が晴れ、湖がその美しい姿をおしげもなく見せる頃、秋はもうすぐそこまで来ている。

水 の 日

今、資源の有限性は、あらゆる部分に波及し、昭和52年、ついに国土庁では、8月1日を「水の日」として国民全般に水の貴さと呼びかけることとなった。

私たちは、ある面で、ゆたかともいえる物質文明を生み出したがそれは又不幸な時代を生み出したともいえる。

かって、日本の国土にあったゆたかで、うまい水。それが最早、飲めなくなるのだとしたら——。

高度に成長した現代社会の中で、どのようにしたならば多様な役割をもつ水を確保することが出来、又、生命の根源としての水を確保していくことが出来るのか。

「水の日」を機会に国民一人一人が思考を深める時代を迎えている。